

世界：原油価格の下落が再エネに与える影響は限定的か¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

各国が気候変動対策として再生可能エネルギーの導入に力を入れる中で、昨今の原油価格の下落²は再エネの競争力を低下させ、導入にブレーキをかけるのではないかと懸念されている。

再エネの中で、おそらく直接の影響を被るのはバイオ燃料であろう。2月半ば、ドイツのバイオ燃料企業 CropEnergies 社³は、油価の下落によるバイオエタノール市場の軟化を理由に、英国での生産を一時停止すると発表した。同社によると、バイオエタノールの価格は1月中旬時点で過去最低水準⁴に下落したという。

また、ドイツのエネルギーコンサル会社 THEnergy は最近のレポートの中で、原油の安値による鉱山業への影響について考察した。具体的には、遠隔地にあるオフグリッドの鉱山では高価なディーゼル発電に代わってソーラーとディーゼルのハイブリッド発電が有効な代替策となっているが、原油の安値は一時的にその普及を遅らせる可能性があるという指摘している。

しかし、こうした事実や意見がある一方で、大方の専門家は楽観的な見方を示している。米国の調査会社 Frost & Sullivan は最近のレポートで、今後の再エネ投資は原油の安値にかかわらず拡大傾向を維持すると予測した。「現在、総発電量に占める石油の割合は世界全体で 5%、多くの国で 1%以下」にすぎず、長期的に石油の割合が「大きく回復する可能性は低い」ことから、再エネへの投資は「堅調を維持」するだろうとレポートは述べている。

また、米 Bloomberg は1月末、油価下落による再エネ（主に米国のソーラーエネルギー）への影響はないとする記事を掲載し、その根拠として以下の7項目を挙げた。

1. ソーラーエネルギーは石油と競合しない（主に石油は自動車用、再エネは発電用）
2. 在来電力の価格は依然上昇している
3. ソーラー電力の価格は依然下がり続けている
4. ガソリン車と競合するプラグイン電気自動車の売り上げは好調である
5. ガソリンの小売価格は原油価格ほど大きく下がっていない

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外省エネ等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² 昨年夏以降 60%も急落した原油価格はここへきてわずかに上昇する兆しを見せているが、国際エネルギー機関（IEA）が1月半ばに発表した予測によれば、本格的な上昇は今年後半となる見通しである。

³ ドイツの製糖大手 Suedzucker 社傘下。英子会社の Ensus 社を通じて、バイオエタノールの生産を行う。

⁴ 417 ユーロ/立方メートル

6. 原油価格は永久に低いままではない
7. 世界のクリーンエネルギー投資は増え続けている

Bloomberg は「原油価格と米国の再エネとの間に直接的な関係はないが、二次的な影響は考えられる」とした上で、原油の安値は再エネの導入にとってむしろプラスになり得るという見解を示した。「原油価格の下落は間接的に米国経済を刺激し、天然ガスや再エネのさらなる利用拡大につながる可能性がある」と、記事は述べている。

とはいえ、原油価格の急激な変動はエネルギー産業全体にとって決して好ましいものではない。民間組織の世界エネルギー会議（World Energy Council）は 1 月に発表したレポート⁵で、原油価格の下落は 2015 年に世界のエネルギー政策立案者が直面する最大の懸念事項であると述べている。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

⁵ <http://www.worldenergy.org/publications/2015/world-energy-issues-monitor-2015/>

同報告書は、原油価格の乱高下とともに、再エネの価格低下もエネルギー産業の先行き不透明を増す要因になっていると指摘している。